# スープのよろずや「花」

スープのよろずや「花」は、「スープ」と「手助けする人」と「3つの願い」を届けます。

## 1.　スープ

食べることの大事さと困難さを考えるとき、味わいと栄養とのどごしの良さを合わせもったスープの存在はとても大きいと思います。からだを温めてくれるスープ、おなかにやさしいスープ、いのちにエネルギーを与えてくれるスープ。そうした安らぎを分ちあえることを願って、毎日一品の日替わりスープを作ります。お店にお立寄りいただき、またご自宅でも、味わっていただけたらと思います。

## 2.　手助けする人

医療や介護の現場に制度やガイドラインやパスが氾濫する時代ですが、それに沿っていては、人の体も心も切り捨てられて貧しくなっていくばかりです。医療や介護の現場は、制度が基盤とする一律性、効率性、経済性から遠いところにあります。一人一人の多様なニーズに応えるためには、試行錯誤しながら知恵を出し合うしかないと思います。だから「手助けする人」による支え合いの店「よろずや」を開きたいと考えました。

## 3.　「3つの願い」…原発のない国、戦争のない世界、死刑制度のない社会

核廃棄物の処理ができない原子力発電は危険そのものです。
戦争放棄をかかげた日本国憲法第9条を変える必要はありません。
死刑制度とは人を殺すこと。どうあっても許されない人殺しが、どうして国家のもとには許されるのでしょうか。核も戦争も死刑もない、そういう社会になることで、真にいのちを大事にする医療と介護が成り立つのだと思います。

＊

「スープ」「手助けする人」「3つの願い」、これらのことが、「いのち」を考えるとき、ひとつにつながりました。スープのよろずや「花」を営もうと思い立った理由です。
時代に流されることなく、ひとり佇つ。そのことを大事にする一人一人が出会って、励まし合える場に、スープのよろずや「花」がなれたらいいなと思います。

スープのよろずや「花」代表　　伊藤真美

# 「スープ」のこと

身近で様々な食べ物や飲み物を簡単に手に入れることができるようになった時代です。医療や介護の現場でも、さまざまな栄養強化食品、介護用食品、とろみ食品があふれ、お弁当の宅配のサービスもあれこれ選択できるようになって、ありがたい時代になったなあと思います。

でも、病気になったり高齢になった時、食事が、食べるということが、若くて健康である時には思いもつかないほど、大変なことだと、私たちは緩和ケアに携わるなかで実感してきました。緩和ケア病棟で、季節を問わずの人気メニューは、なんと「かき氷」なのです。そのかき氷に加えて、もうひとつ人気メニューを増やすことができればと思っていました。

高級品でなくともいい、珍味でなくともいい、その季節に身近にあるふつうの食材で、やさしく体に届く食べ物がいい。

歯が弱くなっても、飲み込む力が弱っても、おなかが弱くなっても、口のなかにやさしく広がる食べ物がいい。

たくさんのおかずが食べられなくとも、一品で豊かに広がる味わいのスープがいい。

スープを毎日一品、作ります。
どうぞ味わってみてください。

# 「よろずや」のこと

　医療保険や介護保険では受けられない手助けが必要な時、
相談ください。介護度は必要ありません。
　若くて健康だった時にはなんでもなくできたことのなのに、
病弱になったり年を重ねたりで体の無理が利かなくなった時、
一人でできなくなることがある。どんな手助けがあればいいのか、
教えてください。

　　どんな手助けがあればいいのか、教えてください。

　　「手助けする人」による支え合いの店「よろずや」は、
　　手助けする人がいれば手助けされる人もいるけれど、
　　お互いさまの支え合いになれればいいなと思います。

「倚りかからず」

もはや
できあいの思想には倚りかかりたくない
もはや
できあいの宗教には倚りかかりたくない
もはや
できあいの学問には倚りかかりたくない
もはや
いかなる権威にも倚りかかりたくはない
ながく生きて
心底学んだのはそれぐらい
じぶんの耳目
じぶんの二本足のみで立っていて
なに不都合のことやある
倚りかかるとすれば
それは
椅子の背もたれだけ

「倚りかからず」 茨木のり子著　筑摩書房より

時代に流されることなく、ひとり佇つ。そのことを大事にする一人一人が出会って、励まし合える場に、スープのよろずや「花」がなれたらいいなと思う。椅子に座って少し休んでもらえるお店になれればいいなと思う。